

第2回アクティブステージ研修

令和4年10月27日(木)

講演「子どもの遊びを通して垣間見る発達と遊び②」

講師 奈良教育大学 教授 廣瀬 聡弥氏

1. 事前課題「子ども達が発見したり試したり工夫したりしていると感じたこと」の場面についての写真とエピソードを持ちよりグループワークを行う。 ※ ・・・廣瀬先生の助言

○新聞紙遊びの事例(1,2歳児)

新聞紙を破って遊んでいたが、ふと見ると大きな新聞を布団に見立て、ごっこ遊びが始まった。

新聞紙遊びは年齢によってとらえ方が違う。

(破る、丸めて剣にする、5歳児で字に興味を持ち子ども新聞に発展したこともある)

園内研修の時、同一素材で遊んでみると面白い。

○色水遊びの事例(3歳児)

絵の具で色水遊びを楽しんでいたが、年長児の影響を受けて花を使って色水遊びを楽しんでいた。指でつまんだり、水を少なくしたり色水をより濃くするための思考を育んでいた。

子どもが思考錯誤していること、子どもの変化に保育者が気づいていることが大事。色の違いを見ること(観賞)も表現の一つ。

2. エピソードを一つ選び「子どもの見取り」「環境について」「保育者の援助や関わり」についてグループワークを行う。

○ビー玉転がしの事例(4歳児)

外廊下を使いダイナミックにビー玉転がしを楽しんでいた。廊下からビー玉が転がり側溝に落ち、溝蓋の間からどうやってビー玉をとるか子ども達で試行錯誤していた。

セロテープ、ラップの芯、空き箱等様々な物を使い工夫していた。

偶然の出来事を学びの機会としてとらえると良い。

学びの種は保育の中に無限にある。

どこを拾い上げるかは先生自身の判断。

○ドミノ倒しの事例(5歳児)

自作の牛乳パック積み木でどうやったらうまく倒れるか子ども達が考えながら遊ぶ。「使えそうなものを配置」「毎日繰り返し遊べる」「片づけをしない」等、保育者が子どもの姿を見ながら環境の工夫や援助を行う。うまくいかないことが続いたが保育者も一緒になって楽しみ、気持ちを盛り上げるような関わりを心がけた。

大事な関わり

子どもがガムテープを転がしドミノを倒す姿があった。大人は先入観があるが子どもはモノを多面的にとらえる。子どもの多様な気づきや発想を伸ばしていくことが大事。

3. 廣瀬先生の総評

遊びの継続は
どの様に考えたら
いいのかな？



<参加者からの質問>



- ・3歳児は遊びの継続は考えなくて良い。継続することは見通せるということ。その力がつくまでは遊びの継続は難しい。
- ・5歳児であっても継続はしなくて良い。気まぐれでいい。遊びを変えていくことによって様々な経験を積める。
- ・子ども達がやりたくなかった時に出来るように環境は準備しておいた方が良い。

◇遊びの発展の要因

- ・アクセス可能な環境の用意・・・使いたい時にそこにいけばそのものが使える
- ・日頃から様々な体験をしている。
- ・環境のアフォーダンス・・・同じ環境でも年齢によって促されるものが異なってくる

○子どもの行為を楽しんで捉え「すごい！」と感心することが大切！

○エピソードについてどれだけ語れるか。語れるということは思いがあるということ。

**保育者が思いをもって保育することが大切です。
何よりも保育を楽しみましょう！**

【参加者の声や気付き】

- ・自分では分析しきれなかった子どもの見方や捉え方、学んでいることなどを他の保育者に分析してもらえたことで気付きや学びになった。
- ・同じ学年の先生方と話をしたことで、それぞれの園での遊びや悩みなどを共有できたり、自園でも取り入れられそうなアイデアを知ったりととても学びの多い時間となった。
- ・子どもは遊びの中でたくさんの学びがある。保育する中で、どうしても遊びの継続をしないといけないと思いがちだがそうではなく、しっかりまた遊べる環境を準備することの大切さを再度確認することができた。
- ・些細な事でも学びの種になり、保育者次第で簡単に学びの種をつぶしてしまう。一方で、思い通りにならなかった保育も別の視点から見ると学びの種となっていたかもしれないということに気付いた。

作成者 幼児教育アドバイザー 竹下由江